

Title	伊能忠敬先生の對馬測量當時の書簡
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1925
Jtitle	史学 Vol.4, No.1 (1925. 2) ,p.146- 146
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19250200-0146">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19250200-0146</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 伊能忠敬先生の對馬測量當時の書簡

先達鹿島香取に參拜の歸途、佐原の伊能忠敬先生タビタカの舊宅を訪づれて、先生の測量に用ひられた尺度 量程車 半圓方位盤・星鏡等の器械類並に自筆の測量日記・覺書・書簡等を拜見したが、これ等は皆な先生が十餘年間 櫛風沫雨して北は蝦夷の奥より南は九州の端迄測量せられた其苦心勞力を物語る貴重な資料である。文化十年 第二次九州測量の節三月廿八日壹岐より對馬の府中（嚴原）に渡り、翌日より兩海岸淺海灣等を測量し始め、五月十六日に終了して府中に歸着したが、この測量は仲々の苦心であつたといふ。當時北端の鰐浦より其長女 妙薰（稻）に贈つた左の書簡がある。

一筆申進しまいらせ候彌御揃御壯健ニ御入可被成さ大慶致し候此方我等初坂部並ニ下役衆内弟子侍草履取迄 一同無事ニ候間御案じ被成間敷候左候得ハ三月廿八日壹岐の國より對馬の國に無難ニ相渡り廿九日より測量 相勤當四月廿七日迄ニ江戸表ニ而も對州御用ニ而御越の御役人御存の日本一ニ申程ノ海邊大難所首尾相濟じ 申候此ヨリ日本一の大難所街道ト殘ノ入海相測五月十二三日頃ニ對州府中城下へ立歸り又々風波相見合五島 渡海夫より大村領の島々相測七月初長崎に罷越候此度ハ薩州屋久島初 子島夫より平戸領の島々壹岐對馬共 ニ大難所ニ候所一同是迄怪我大病人も無之大仕合實ニ大幸ト存候……

四月 廿七日

東 河 翁

妙薰御坊江

右の文中に「日本一の難所云々」、見える事に據ても、對馬測量は仲々の難物であつたものと思はれる。

(武田勝藏記)